

中高部門 2025年度事業報告

1 重点項目

(1)ガバナンス強化による学校教育改革の実践と入試対策

- ・管理職会議を丁寧で開催する中で、重要事案の審議、決定を行った。ガバナンスが十分発揮され、様々な案件についてスムーズな運営ができた。
- ・運営改革企画部より提案が在り、業務・学校組織のスリム化に着手した。
- ・入試戦略会議は全校的視野に立った積極的入試戦略を構築し、生徒募集の目標達成を目指した。

(2) 2025重要課題

①中学入試

[2026 年度入試目標]

1. 医進選抜と英数選抜合わせて25名を目指す

2. アスリートコース 60名を目指す

男子サッカー 15名 硬式野球 20名 男女バレー25名

ソフトテニス フェンシング 卓球 陸上←不透明

3. プロGRESSコース 15名を目指す

4. アートコース 5名を目指す

- ・アスリートコースについては、ある程度の安定数は見込める（50～60）
- ・医進選抜に理系の選抜された生徒を受け入れることの検討が必要である。現場では六カ年医進選抜の成果が出た後の方が良いという考えがある。この点については議論が必要である。
- ・高校授業料無償化を受けて、中学三年間は費用がかかるが高校が無償化されるので、質の高い教育を六カ年受けられるメリットは大きいことをアピールする。

※原則、医進選抜生一期制が実績を出すまでは、医進選抜コースの再編は行わない。

[入試結果]

エミネンスコース 医進9 英数9 18名

プロジディコース（プロGRESS7 アスリート51 アート12）60 計88名

【2027年度に向けて】

- 1 コース制の見直しをする中で安定的な生徒募集に当たる。

・エミネンスコース 1・2年次は中学部門の完成時期とし、3年から医進・理系・文系（英数選抜）に別れて先取り学習を実施。（25名）

・プロジディの名を廃止し、プログレスコース・アスリートコース・音楽・美術コース募集とする。特に大学の芸術大学化を視野に、音楽専攻の生徒募集を復活させる。また、プログレスコースの魅力をアピールする中で、生徒数を確保する。（75名）

②高校入試

[2026年度入試目標]

普通科

個性探求 150 学力重点 AS 50 学力重点 PS 30 英数選抜 9 医進選抜 13

音楽科 20

美術科 50

[入試結果]

普通科

個性探求 大谷中 29 単願 112 一般 10 151名

学力重点 AS 大谷中 10 単願 24 一般 1 35名

学力重点 PS 大谷中 3 単願 6 一般 4 13名

英数選抜 大谷中 7

医進選抜 大谷中 12

音楽科 大谷中 3 単願 27 一般 3 33名

美術科 大谷中 1 単願 48 一般 10 59名

計 310名

【2027年度に向けて】

1. 学力重点 AS 生徒、合計 50 名を超える為の募集戦略を練る。奨学金の在り方を考える。
2. 学力重点 PS を廃止し、G コースへ吸収する。学力上位の生徒を一クラスにまとめ、平常授業においては大学受験を視野に入れた濃密な授業展開をする。講座制・予備門により、大学受験対策を講じる。
3. 次年度は札幌市内の中 3 生徒が大幅に減少するため、奨学金の配分や人数、基準等について再考し、多くの生徒を確保する。
4. 音楽・美術を要する学校としての特色を鮮明にし、生徒募集に当たる。高大連携による授業展開を多いにアピールする。特奨制度の見直しにより優秀な生徒の確保に努める。

(3)高校進路実績の向上

国公立大学28名 私立大学239名 短期大学18名 専門学校46名 合計331名

●国立大学 24名 ●公立大学 4名

【国公立大学】（数字は合格者数）

（道内）北海道（3）小樽商科（1）室蘭工業（4）北海道教育札幌校（2）北海道教育函館校（1）

北海道教育岩見沢校（10）釧路公立（2）

（道外）東京学芸（1）茨城（1）熊本（1）大阪公立（1）京都府立（1）

●MARCH 28名 ●SMART 19名 ●関関同立 2名 ●日東駒専 3名

●産近甲龍 1名 ●成成明学獨国武 7名 ●五美大 4名 ●北海・北星 45名

【私立大学】（数字は合格者数）

（道内）北海学園（33）北星学園（12）北海道科学（15）北海道医療（14）天使（1）藤女子（7）酪農学園（1）北海道武蔵女子（3）札幌（7）札幌学院（3）東海（3）日本医療（3）北翔（11）北海商科（5）北海道文教（6）札幌大谷大学（25）ほか

（道外）同志社（2）明治（6）青山学院（6）立教（6）中央（2）法政（8）東京理科（1）東洋（1）駒沢（1）専修（1）成蹊（4）成城（1）獨協（1）國學院（1）武蔵（3）近畿（1）創価（1）芝浦工業（1）順天堂（2）桜美林（2）国士舘（1）玉川（2）日本体育（1）関西外国語（1）中京（1）大和（1）東北学院（2）東北福祉（1）東北芸術工科（5）多摩美術（3）女子美術（1）昭和音楽（2）ほか

[2025年度進路目標とその結果]

①国公立大学合格 目標30名 今年度28名（前年度28名）

②難関私立大学合格 目標10名 今年度31名（前年度8名）

③国公立大学年内入試合格 目標15名 今年度14名（前年度13名）

④北海学園&北星学園合格 目標35名 今年度45名（前年度32名）

⑤札幌大谷大学&短大合格 目標50名 今年度34名（前年度36名）

①については、目標30名に届かなかったものの、前年度の28名は何とか維持した。また、北大3名の

合格は近年では高実績となった。また、昨年に引き続き、全ての科・コースから合格者が出たことは本校にとっては良い材料である。

②ちなみに、難関校を「早慶上理」「MARCH」「関関同立」の13校としている。延べ人数ではあるが、今年度目標数値を大きく上回ったとともに、昨年と比べて大幅増加となった。強化クラブ・一般受験とデュアルで数字が出ているのが強みとなっている。

③目標に僅かに届かなかったが、昨年度より増加した(1名増)。スポーツ・音楽・美術分野を有する教育大岩見沢校が大半を占めている(10名)のは本校の傾向と言える。

④道内私大では人気の両校である。指定校、総合、一般とそれぞれの受験型からまんべんなく合格者が出ており、目標を上回るとともに昨年度より大きく増加した。

⑤系列校については、前年度とほぼ同じ程度であった。目標には届かなかったが社会学部の募集停止発表があったのでやむを得ない面がある。次年度は大学改組を受け、普通科からの希望者を増やすことが重要である。

(4) 学園として施設設備の有効利用の推進

・丘珠グラウンド・体育館・学校グラウンドについては、幼中高大連携がスムーズに行われ、有効利用が推進された。

・音楽、美術に関わる施設設備の有効利用も大学との連携の中で有効利用されており、さらなる連携の強化を強めている。

(5) 幼中高大連携事業の推進

・学園連携のための会議も丁寧を実施され、各部門間での話し合いが強化されている。大学改組に伴いより一層の連携強化が望まれる。高大連携強化にむけたあらゆる方途を企画・実行をしていくなかで、札幌大谷大学への内部進学者増を図る。

(6) 36協定締結後の労務管理

平成27年度より36協定の締結、変形労働時間制を導入している。本年度も学内勤務は変形労働時間制に則って実行している。タイムカードによる労務管理、および変形労働時間制の具体的運用、労務・超勤の管理及び有給休暇の適正運用を図った。土曜出勤およびクラブ活動等の労務管理も行っている。有給休暇の促進を積極的に行っており、多くの教職員が有給休暇を取っている。

2 教育事業について

(1) 宗教的情操教育の深化

宗祖御命日勤行(毎月200名程度の生徒が参加)・各行事・儀式を通して生徒や教職員に対し、

仏教の教えに触れる機会を多く与えた。仏教の視点を全教員が共有できるための研修を4月に行った。宗教部担当者を毎年変え、多くの教員が宗祖御命日勤行に参加できるようにしている。

(2) キャリア教育の充実

進路指導部を中心により充実したキャリア教育を実行している。「エナジード教材」を継続利用し、一層進化したキャリア教育を実践すると同時に、エナジードの実質的な効果を点検し、よりよいものにするよう検討する。次年度に向けては、教務部と進路指導部の連携を強化し、「探求」分野の指導とエナジード教材による指導の融合を図り、大谷独自のキャリア教育の構築を目指す。

(3) 英語教育の充実

大学入試改革、グローバル化に向けた国の施策を視野に入れながら、魅力的な英語教育の在り方を模索している。Otani Morning English・オンライン英会話・英語学習ソフト「ELST」の活用・Global Studies Programの実施・海外研修プログラム（ニュージーランド留学・研修）の再開等、様々な取り組みはその実効性が認められた。今後は若手指導者の育成と、中学入門分野及び高校分野の英語教育の充実を図ることが課題である。

(4) 生徒の自治活動の活性化

生徒会活動・学校行事（学園祭・体育祭）を含め、生徒の自主性を重んじた指導を強化することの共通理解が教員間に浸透してきた。校則を含め、生徒自らが考え、話し合い、新しい形を作り上げるよう指導している。自ら進んでチャレンジできる生徒の育成を試みる事が重要である。

(5) 進路実績の充実

学校が目指す教育活動が目に見える形で現れるのが進路実績である。札幌大谷は大学進学校としての道を歩みつつあるが、進路実績のさらなる向上を目指して努力を重ねる。

(6) ボランティア活動の充実

ボランティア活動は、生徒の自主性を伸ばすのみならず、将来的な進路にも直結する重要な要素となる。よって、生徒会や各クラブで行っているボランティア活動をより一層充実したものとすることが必要となる。

(7) 前例にとられない新しい学校作り

伝統は絶えず検証し、改革されることで、確固としたものとなる。校則、従来の前例による業務等を根本から見直し、自ら考え、改革を積極的に進めていった。運営改革企画部から積極的な提案があり、次年度にむけて新たな改革に着手する。

3 財務関係

(1) 予算措置

現実に即した予算立てを行い、経費節約のための働きかけをした。学園の予算編成方針に基づき効率的な予算立てを行った。

(2) 人件費

学校存続のために人件費の適正支出を全教員に周知し、人件費適正化に向けた取組を行う必要がある。全学園規模での『一元化（統一化・画一化）』のもと、計画的に進めていくことが大切である。

(3) 予算編成

各分掌からの予算要求額(教育経費)を審議し、経費の節約と支出項目の抑制を図り、超均衡予算を立てて実行することができた。

(4) 施設・設備の整備

予算進捗次第となるが、校舎補修を中心に施設整備を進めた。本館4階のコンピュータ室を中規模の選択教室として活用した。また、生徒のための「ゆとりのスペース」を設置することを決めた。

(5) 財務計画

非常勤講師の持ち時間数減を図った。選択授業の合同開催を増やし、授業数を減らす工夫をした。次年度に向けてはカリキュラムのより一層の合理化を図り、人件費の削減を試みる。